

香川県結核予防プラン改正の概要

プラン策定の趣旨

- 我が国における結核患者数は減少傾向にあるものの、平成28年の新規登録結核患者数は、約1万8千人となっており、依然として我が国最大の慢性感染症である。
- 県や保健所設置市による結核対策の結果、本県の人口10万人対り患率は減少傾向にあるものの、結核患者に占める70歳以上の高齢者の割合が全国平均よりも高くなっており、高齢者に対する結核対策や、DOTS(直接服薬確認療法)による確実な治療を行っていくことが、重要な課題となっている。
- 平成28年11月に国の「結核に関する特定感染症予防指針」が改正されたことを受け、平成24年3月に策定した「香川県結核予防プラン」について、必要な見直しを行い、本県の現状に即した更なる結核対策の充実を図ることを目的として、プランの改正を行う。

プランの位置付け

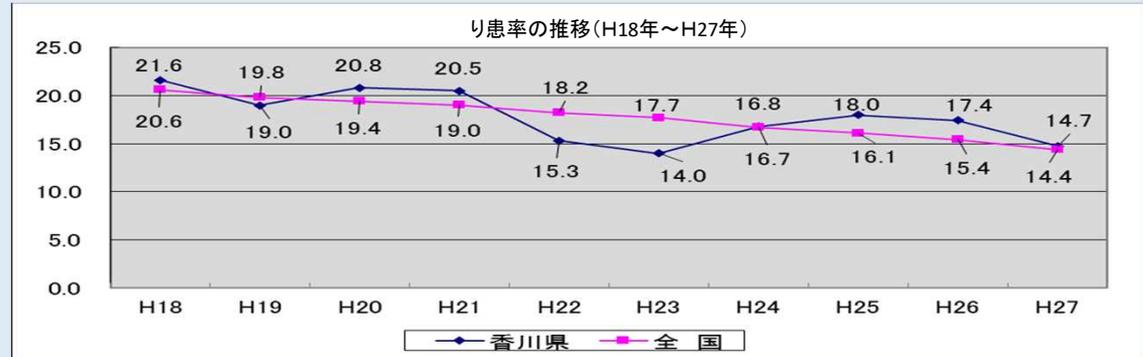
本プランは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「結核に関する特定感染症予防指針」に基づき、本プランの上位計画である「香川県感染症予防計画」との調和を図りながら、結核対策の取り組むべき施策の方向性を示すものである。

※平成19年に結核予防法が廃止され、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に統合されたことから、平成24年3月に「香川県結核予防計画」の内容のうち、結核対策に関する基本的な方針については、「香川県感染症予防計画」に統合し、結核対策に関するより具体的な施策や目標等については、「香川県結核予防プラン」として取りまとめ、「香川県感染症予防計画」の下位計画と位置付けた。

香川県における結核の現状(平成27年)

<活動性結核患者について>

- 新登録結核患者数は144人で、人口10万人対り患率は14.7



- 新登録結核患者に占める外国出生者の割合は6.3%
- 年末現在登録者数は360人、登録率は36.9
- 新登録結核患者に占める高齢者(70歳以上)の割合は69.4%
- 全結核患者に対するDOTS(直接服薬確認療法)実施率は97.8%
- 新登録肺結核患者の治療失敗・脱落率は3.0%

<潜在性結核感染症の者について>

- 潜在性結核感染症の者に対するDOTS(直接服薬確認療法)実施率は97.7%
- 潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合は88.6%
- 接種対象年齢(1歳未満)のBCG接種率は98.2%

<受診・診断状況について>

- 発病から初診までの期間が2か月以上の割合は8.2%
- 初診から診断までの期間が1か月以上の割合は17.7%

<定期健康診断について>

- 定期健康診断の受診率
・市町長実施 ⇒ 26.1% ・学校長実施 ⇒ 99.3% ・施設長 ⇒ 97.1%

香川県結核予防プラン 改正のポイント

＜国＞結核に関する特定感染症予防指針	
項目	改正のポイント
具体的な目標等	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果目標として、平成32年までに人口10万人対り患率を10以下。 ● 事業目標として、①全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対するDOTS実施率を95%以上、②肺結核患者の治療失敗・脱落率を5%以下。
病原体サーベイランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 都道府県等は、結核菌が分離された全ての結核患者の検体又は病原体を確保し、結核菌を収集し、積極的疫学調査に活用するほか、発生动向の把握や分析、対策の評価に用いるよう努めることを追記。
発生の予防及びまん延の防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ごとに定期健康診断の対象者の設定、受診勧奨方法等を十分に検証することが重要であることを追記。 ● 接触者健康診断について、対象者を適切に選定し、必要かつ合理的な範囲について積極的かつ確実に実施することが望ましいことを追記。
医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 低まん延国化に向けて、潜在性結核感染症の者の確実な治療が重要であることを追記。 ● 患者を中心とした医療の提供に向けて、病床単位に必要な結核病床を確保すること、結核病床とその他の病床を一つの看護単位として治療を行うこと等により医療提供体制の確保に努めることを強調。
患者中心のDOTSの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本版DOTS戦略として、確実な治療のため、潜在性結核感染症の者も含めた結核患者を中心として、その生活環境に合わせて、服薬確認を軸とした患者支援等を推進することを追記。 ● 保健所が必要に応じて、地域の関係機関へ積極的に地域DOTSの実施を依頼するなど、地域の結核対策の拠点としての役割を引き続き果たすことを強調。
高齢者・外国人に対する結核対策	



＜香川県＞香川県結核予防プラン	
改正のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● 香川県の数値目標については、別紙「香川県結核予防プランにおける目標の設定と考え方」を参照。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療機関等の協力を得ながら、結核菌が分離された活動性結核患者について、その検体又は病原体の確保及び結核菌を収集し、結核菌の分子疫学的手法からなる病原体サーベイランスの構築に努めることを追記。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 市町長実施の定期健康診断の受診率の向上のために、県民向けの受診勧奨啓発活動の実施を検討することを追記。 ● VNTR分析法を用いた結核菌分子疫学調査を積極的に活用しながら感染源及び感染経路の究明することによって、より効率的な接触者健診を実施することを追記。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 潜在性結核感染症の者に対して確実に治療を行っていくことを、結核に係る医療提供に関する施策の基本とすることを追記。 ● 第二種感染症指定医療機関(結核病床)の目標病床数と、結核患者収容モデル病室の目標病床数を追記。(香川県感染症予防計画より引用) ● 県は、国の定める施設基準・診療機能の基準等に基づき、結核病床とその他の病床を一つの看護単位として治療に当たる等によって、適切な医療提供体制を維持及び構築することを強調。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 結核患者の確実な治療のため、潜在性結核感染症の者も含めた結核患者の生活環境に合わせて、直接服薬確認を軸とした患者支援、治療成績の評価等を含む包括的な結核対策を構築し、これを推進することを追記した。 ● 保健所は、地域の医療機関等との連携し関係機関に対して、積極的に地域DOTSの実施を依頼するとともに、特に外来でのDOTSが必要な場合には、保健所自らも地域DOTSの拠点としてDOTSの場を提供することを強調。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 香川県は、新登録患者に占める高齢者の割合が全国平均と比べると高い現状があることから、高齢者の結核患者を早期発見し、早期治療につなげる施策を追記。 ● 高まん延国・地域出身の外国人労働者の増加に伴い、外国人の結核患者の増加が懸念されることから、外国人結核患者の早期発見・早期治療に向けた施策を追記。 	

目標値の達成状況について

		H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	<県>目標値 (H27年)	<県>目標 達成度	<国>目標値 (H27年)
成果目標	新登録患者人口10万人対り患率	15.3	14.0	16.8	18.0	17.4	14.7	13以下	▲	15以下
	肺結核患者のうち再治療を受けている者の割合	12.5%	8.6%	9.9%	7.5%	12.9%	4.0%	7%以下	○	7%以下
事業目標	全結核患者に対するDOTS実施率※1	12.0% (参考値)	30.5%	63.8%	83.7%	92.8%	97.8%	95%以上	○	95%以上
	全結核患者に対する治療失敗・脱落率	9.5%	0.0%	0.0%	1.7%	2.9%	2.8%	5%以下	○	5%以下
	潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合	94.3%	82.9%	84.2%	83.3%	84.6%	88.6%	95%以上	×	85%以上
	生後6か月までのBCG接種率※2	96.8% (推計値)	93.5% (推計値)	96.8% (推計値)	85.6% (推計値)	96.6% (推計値)	98.2% (推計値)	95%以上	○	95%以上
	初診から診断までの期間が1か月以上の割合	22.5%	33.8%	27.7%	28.4%	14.8%	17.7%	10%以下	▲	—
	市町長実施の定期健康診断受診率	27.6%	25.2%	25.6%	26.4%	26.4%	26.1%	60%以上	×	—
	学校長実施の定期健康診断受診率	94.4%	97.4%	99.1%	99.2%	99.3%	99.3%	100%	△	—
施設長実施の定期健康診断受診率	86.2%	87.8%	97.5%	95.2%	96.9%	97.1%	100%	△	—	

※1 「全結核患者に対するDOTS実施率」の平成22年実績値については、平成22年のDOTS実施患者数を22年末全結核患者で除して得た百分率を参考値として用いた。

※2 BCG接種率の実績値については、対象年度のBCG予防接種実施数を対象年出生者数で除して得た百分率を推計値として用いた。

<目標値達成度について>

- … 目標値を達成できているもの
 - △ … 目標値に対し改善しているもの(50%以上)
 - ▲ … 目標値に対し改善しているもの(50%未満)
 - ×
- × … 目標値に対し改善していないもの 3

香川県結核予防プランの目標及び基本方針等

結核対策の
成果目標

① 人口10万人対り患率を10以下

結核対策の
事業目標

- ② 全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対するDOTS実施率を98%以上
- ③ 肺結核患者の治療失敗・脱落率を1%以下
- ④ 潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合を95%以上
- ⑤ BCGの接種対象年齢における接種率を98%以上
- ⑥ 発病から初診までの期間が2か月以上の割合を10%以下
- ⑦ 初診から診断までの期間が1か月以上の割合を15%以下

基本方針

結核対策の
取り組み等

結核予防及びまん延の防止の
ための施策

- ① 定期の健康診断
- ② 定期の健康診断の手法
- ③ 定期の健康診断に準ずる健康管理の実施
- ④ 感染症法第17条の規定に基づく健康診断
- ⑤ BCG接種に関する正しい意識の普及
- ⑥ コッホ現象への対応
- ⑦ 結核発生動向調査の体制整備

県及び市町等の役割

- ① 県及び市町の役割
- ② 保健所の役割
- ③ 環境保健研究センターの役割
- ④ 医師等医療関係者の役割

結核患者に対する適正な医療の
提供

- ① 医療の提供
- ② 結核の治療を行う上での服薬確認の位置づけ
- ③ その他結核に係る医療等の提供のための体制

結核に関する調査・研究の推進、人材の養成及び知識の普及啓発並びに人権の尊重

- ① 県等における調査及び研究の推進
- ② 結核に関する人材の養成
- ③ 結核に関する知識の普及啓発と人権の尊重
- ④ その他、結核対策の予防の推進

香川県結核予防プランにおける目標の設定と考え方について

目標設定項目		H25年 (香川)	H26年 (香川)	H27年 (香川)	H28年 (香川)	目標設定の考え方	H32年目標値 (香川)	H32年目標値 (国)
人口10万人対り患率		18.0	17.4	14.7	14.2	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の指針においては、低まん延国化を目指し、10以下の目標値を定めていることから、香川県においても国の目標値と同じとする。 	10以下	10以下
DOTS 実施率	全結核患者に対して	83.7%	92.8%	97.8%	91.5%	<ul style="list-style-type: none"> ● H27年の全結核患者の実績値は、前回プラン策定時における香川県の目標値である95%以上を達成しているが、H28年は達成できていない。 ● 潜在性結核感染症の者も含めたDOTSの実施を徹底すべく、過去6年間に於いて一番高い実績値となっている、H27年の実績値と同水準以上の実施率が維持できるよう、目標値を98%以上とする。 	98%以上	95%以上
	潜在性結核感染症の者に対して<新>	75.0%	75.9%	97.7%	96.3%		98%以上	95%以上
肺結核患者の治療失敗・脱落率<新> ※前回プラン策定時は「全結核患者」に対する目標		1.5%	1.7%	3.0%	1.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● H28年の実績値は、国の基本指針における目標値の5%以下を達成している。 ● 薬物治療の完遂を目指すべく、H28年の実績値と同水準が維持できるよう、目標値を1%以下とする。 	1%以下	5%以下
潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合		83.3%	84.6%	88.6%	92.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● H28年の実績値は、国の基本指針における目標値の85%以上は達成できているが、前回プラン策定時における香川県の目標値の95%以上は達成できていない。 ● 潜在性結核感染症の者に対して確実に治療を行っていくことが重要であることが、国の基本指針においても示されていることから、引き続き、目標値を95%以上とする。 	95%以上	85%以上
接種対象年齢(1歳未満)におけるBCG接種率		85.6%	96.6%	98.2%	—	<ul style="list-style-type: none"> ● H27年の実績値は、前回プラン策定時における香川県の目標値である95%以上を達成している。 ● 乳幼児期に接種するBCGは、結核の重症化予防に有効であると証明されていることから、H27年の実績値と同水準が維持できるよう、目標値を98%以上とする。 	98%以上	95%以上
発病から初診までの期間が2か月以上の割合<新>		4.1%	14.5%	8.2%	13.5%	<ul style="list-style-type: none"> ● 実績値が年によってばらつきがあることを踏まえ、H23年からH28年の過去6年間に於ける実績値の平均値である9.8%と同水準が維持できるよう、目標値を10%以下とする。 	10%以下	—
初診から診断までの期間が1か月以上の割合		28.4%	14.8%	17.7%	21.7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 実績値が年によってばらつきがあり、かつ、前回のプラン策定時における香川県の目標値である10%以下と、H23年からH28年の過去6年間に於ける実績値の平均値である21.2%が大きく乖離している実態を考慮し、過去6年間に於いて一番低い実績値となっている、H26年の実績値の14.8%と同水準が維持できるよう、目標値を15%以下とする。 	15%以下	—